

歴史的まちなみの伝統的木造建造物をさまざまな災害から護りぬく

シリーズセミナー第3回

平成28年7月23日(土) 午後1時～5時頃(開場 午後0時30分)

伝統木造建築技術を基盤とする防災文化の再構築

関西木造住文化研究会は、これまで京町家をモデルに伝統構法の木造住宅の伝統文化を活かした防災性能の向上や再評価を目指して様々な活動を続けてきました。本セミナーでは、これまでの研究成果をふまえて、歴史的まちなみの伝統的木造建造物を、木造伝統文化・伝統意匠を活かした手法で様々な災害から護り、被害を軽減するための課題と対策を様々な視点から学び考えます。お気軽にご参加下さい。

プログラム(午後1時～5時頃、終了後 懇親会)

はじめに

講義(2時間半程度)

講師 渡辺 一正 氏 (NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長)

日本列島はその中央に高い火山脈を有し、地殻的にも複数のプレートが常に衝突、沈降、隆起をしているので、頻りに様々な自然災害(気象災害、地震・火山災害)に見舞われる宿命にあると言われるが、降水量も多く、豊かな森林に恵まれている。日本文化は、そのような環境の中で育まれたものなので、自然災害に対する対策を基礎に置いている。日本建築の主流である伝統木造柱梁構法は、日本文化の基盤技術であり、当然のことながら多くの自然災害に対する対策を内包する。

この講義では樹木の粘り強さを始めとして多様な木造建築事例、熊本地震被害事例などを手掛かりに伝統木造柱梁構法の地震時の挙動を可能な限り明確にし、地震対策実務を検討する。

1. 伝統木造柱梁構法の災害対策を読む

- ・閉じた構造、階層性、複合部材構成、粘りと剛性、接合部の可動性、木材の粘弾特性など

2. 地震被災地での伝統木造建物の被害をどう見るか

- ・熊本地震被災地等における被害の原因と対策の考え方

3. 伝統木造柱梁構法の防災・修復技術を現代に活かす

- ・地震時に繰り返す強振動への対応(粘りと剛性)、
- ・軟弱地盤への対応、
- ・応急住宅への対応(恒久住宅への転用と建築基準法への対応)、木材の使い方、工期・コストへの対応 他
- ・地域産業の復興に繋がる建築・まちの復旧

地域の材料・地域の人材・産業の活用、非常時の建築技術=古代の建築技術の応用

4. 伝統木造柱梁建築技術を活かした信頼性の高い防災文化の構築に向けた課題

意見交換(1時間半程度)

- ・熊本地震被災地の方々のスカイプによる参加(予定)

講師 渡辺一正 氏のプロフィール

工学博士(多孔質材料水分特性値の迅速測定法)、NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長

1967年 早稲田大学理工学部建築学科卒業

1971年 東京大学大学院工学系研究科修了 構法

1971年～2001年 建設省建築研究所 施工技術研究室研究員～第四研究部長等歴任

2001年～2011年 鳥取環境大学教授 構法

1987年～2001年 木造建築研究フォーラム 理事

2002年 市民文化財ネットワーク鳥取設立 会長 2004年 NPO に改組 理事長

2000年 フランス国家功労オフィシエ章叙勲(熱水分同時移動関連研究)

2013年 瑞宝小綬章叙勲(地震防災研究官)

若桜鉄道、転法輪寺などの調査を実施し、国登録有形文化財とするための所見を執筆



会場：西陣^{ヒコバエ}ノ家(京都市上京区上立売通^{カミタチウリドオリ}浄福寺西入姥ケ東西町 632 番地、角地、東隣青空駐車場)

*^{ヒコバエ}ノ家とは、枯れ木の根元から新しい芽が生えることを意味しています。

参加費：1000 円（資料付、会員 800 円、学生無料）終了後の懇親会 300 円（学生無料）

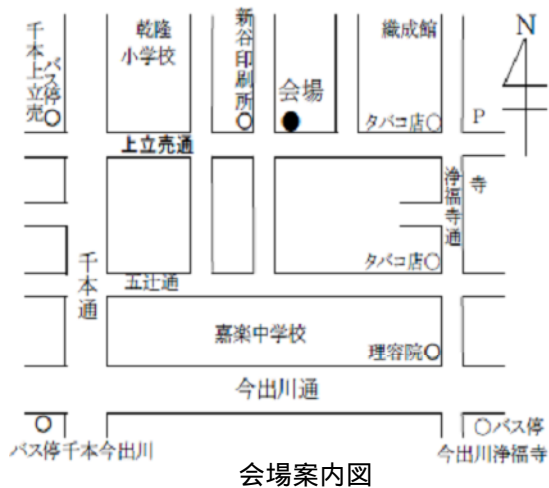
参加方法：お名前、所属、電話・FAX 番号、メールアドレスと懇親会の参加の有無を明記の上、7月21日（木）までにFAXまたはメール、電話でお申込み下さい。
申込時点で参加受理とさせて頂き、ご返事は省略させて頂きます。

参加申込み・問合せ先：NPO 法人 関西木造住文化研究会（略称 KARTH：カース）
TEL 075-411-2730 悠計画研究所内、FAX 075-411-2725、
E-mail info@karth.sakura.ne.jp <http://karth.org/>
京都市上京区上立売通浄福寺西入姥ケ東西町 632 番地

会場の交通アクセス

- ・バス停「今出川浄福寺」又は「千本今出川」又は「千本上立売」より徒歩約 5 分
- ・JR 京都駅より（所要時間 約 40 分、角地）

地下鉄烏丸線「烏丸今出川」駅下車、3 番出口、
烏丸今出川交差点の今出川通 東側バス停から
西行きバス乗車、「今出川浄福寺」下車
市バス利用：A3 の 206 番に乗車、バス停「千
本上立売」下車、または B2 の 50 番、101 番乗
車、バス停「千本今出川」下車



会場

西陣^{ヒコバエ}ノ家（下記所属は当時の内容、WM：ワーキングメンバー）

- ・改修設計 KARTH(担当 悠計画研究所 (田村佳英、武田真理子) & 木下孝一 (数寄屋研究所心傳庵 大工棟梁) WM23 名
- ・改修施工 数寄屋研究所心傳庵、協力：銘木問屋 松文商店
- ・改修前後の振動実験 統括指導：鈴木 有 (秋田県立大学木材高度加工研究所教授) WM23 名
- ・土壁耐震実験 統括指導：鈴木 有 (前掲)、実験：村上雅英 (近畿大学助教授) & 同研究室、WM22 名
- ・土壁防火実験 統括指導：長谷見雄二 (早稲田大学教授) 実験協力：日本建築総合試験所、WM18 名
- ・「京都西陣の町家再生～西陣^{ヒコバエ}ノ家～とその構造・防火温熱環境性能の検証」活動は、NPO 木の建築フォーラム主催・2003 年度第 1 回「木の建築賞大賞」を、研究者の方々と共同受賞。
- ・京都市市街地景観条例歴史的意匠建造物。防災協力井戸あり。

シリーズセミナー（第 4 回以降は詳細が決まり次第お知らせいたします）

第 1 回 3 月 6 日（日）午後 1 時～4 時、「樹木災害と文化財防災」

講師 小玉泰義（岡山県農林水産総合センター森林研究所木材加工研究室）

第 2 回 4 月 24 日（日）午後 1 時～4 時、「火災の実態と建築物の防耐火に関する基本」

講師 吉田正友（大阪工業大学 特任教授（博士（工学））

第 3 回 7 月 23 日（土）午後 1 時～5 時頃、「伝統木造建築技術を基盤とする防災文化の再構築」

講師 渡辺一正（NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長）

会場（共通）：京都西陣^{ヒコバエ}ノ家